

第3回長浜市「挑戦と創造」の懇話会 議事要点録

I 日 時 平成30年10月16日（火曜日）15時00分～17時00分

II 場 所 長浜市役所本庁5階 5-A会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（座長） 宮本麻里委員
吉田真理子委員 松井善典委員
【事務局】古田総合政策部長、米田総合政策部次長、横尾総合政策課長、
柴田課長代理、服部主幹、山田主査、田中主事、
【関係課】川瀬市民活躍課課長代理

IV 内 容

1 開 会

2 報告事項 第2期基本計画の策定期間について、議論を深めるため当初の12月から来年2月に変更する旨を報告。

3 議 事

（1）第2期基本計画の策定（現行計画からの改定）内容（案）について

事務局 <資料2にもとづき説明>

座長 「小中一貫教育校による系統的・継続的な学習指導」について、小中学校での切れ目のない連携という視点は、一貫校だけでなく市域の学校全体で持ってほしい。地域共生社会の実現について、具体的に何をしていくかが難しいと感じている。旧浅井町で医療、福祉関係者で話し合いする中、課題は見えてきている。各地域で出た課題を市域全体で束ねて解決していく仕組みがあれば良い。

事務局 6つの重点プロジェクトの中に「地域で支え合い」というものがある。地域づくり協議会や社協などと連携し、地域とのつながりを持てるよう動き始めている。ちょっとしたことの相談窓口ができないかと考えている。

委員 案件によって窓口が異なるのは分かりづらいので、ワンストップの相談窓口もあれば良いと思う。

座長 資料の「改定する背景・根拠等」に書かれていることは抽象度が高く、具体的なものが見えてこない。実施計画を通じて具体的な事業に落とし込まれるということか。

事務局 そういう取組も出てくる。

委員 教育に関連して、学童や夏休みの過ごし方など、地域によって耳にする問題も異なるが、そのような視点も入ればと思う。

女性の就労については、企業側の雇用形態の多様化だけでなく、働く側、特にお母さんたちが学ぶ機会づくりへの支援もあれば良い。

3 意見交換

テーマ：最近の人口動態と今後の対応について

座長 <資料にもとづき説明>

- 皆さんの身の回りで若い女性の減少を実感することはあるか。子どもを産み、育てるといふ長浜を支えるベースが崩れてきている。
- 委員 子育て世代の人たちから不安を聞くことが多い。余呉などでは、将来、年老いた時に買い物をどうしたらよいかといった暮らしのイメージができないことや、教育環境についての不安などが話題にあがる。
- 委員 長浜市内でも住んでいる地域によって違うと思う。米原市では保育園の無償化が人口増につながったこともあると思う。
- 事務局 米原市では土地の価格の違いや旧近江町の団地造成の影響もあると考えられる。
- 座長 長浜から米原や彦根に転出もしている。
- 委員 年老いてからの不安は、何があれば安心できるのか？と考えることがある。買い物については、宅配事業をやるうとしても利益を出すのは難しい。買い物が不安だという声がある割には、実際には需要は多くない。
- 座長 沖縄の離島ではみんなアマゾンのプライム会員であると聞く。買い物に対する不安はあっても何とか手に入る手段はあるはずである。
- 委員 大手のスーパーなどは資本主義のもと経営されているが、地域と共生するインフラという視点での販売のあり方でないと難しい。買い物の他に、高齢になったときに地域に友だちがいなくてというのも大きな不安になる。
- 座長 一方で何十年も先の不安に対する行政施策というのも難しい。
- 委員 人口を増加させるための施策と、高齢になったときの不安を取り除いて人口減少させないという施策の両方が必要ではないか。
- 座長 Uターンを促すには、例えば同窓会に補助金を出すなど、ホームタウン（故郷）に帰ってくる仕掛けにより、親とのコミュニケーションを増やすということもあると思う。一方で、人口が減っていく中でも暮らしが成り立つように、セーフティネットを設けるということも必要。徒歩圏内で買い物できたり医療福祉施設があるようなところに住むことを提案できると良い。今は長浜で将来住み続けられるというロールモデルがない。
- 座長 同窓会や親との会話となると市としての施策対応は難しいが、転出した若者とのネットワークづくりはしていないか。
- 事務局 転出された理由を聞いたりすることはできていないが、「東京ー長浜リレーションズ」というものを立ち上げ、関係人口や交流人口の増加、最終的には移住の促進を図ろうとしている。東京での立ち上げイベントには30~40人くらい集まって頂いた。SNSで拡散して頂き、東京から長浜市を応援してもらおうという取組をしている。また、大人の修学旅行ツアーで地元に戻るというような話も出ている。
- 座長 県でも同窓会的なことはされているが、そこから先の関係人口を増やしていこうとするところでは長浜市の取組は進んでいると思う。
- 事務局 30歳成人式など毎年イベントをするのも良いと思う。仕事で長浜から転出するとなかなかふるさとを顧みるということがない。親が亡くなったりしてしまうとつながりもなくなる。
- 委員 東京と長浜の両拠点で、二重の生活や体験を楽しむということなども、もっと発信したい。
- 座長 2拠点で生活するメリットや支援がないと難しいのではないか。
- 事務局 もう一つの観点で、コンパクトシティ化に向け、住み替えを施策として進めていくのか。夕張市は進めてはいるが、行政も手が出しづらいところと思う。包括ケアとしては良いが。
- 座長 コンパクトシティという考え方は合併前からある。まずは旧町単位で拠点をつくり、その拠点同士をネットワークで結び付けていこうとしている。その次の段階で北部と南部に拠点を集約するということになるが、一方で地域コミュニティを大事にするという考え方もある。（こうした考えを示すものとして）これから立地適正化計画を検討していくところである。

委員 住み方に選択肢があるかないかは重要である。

座長 駅前に賃貸住宅があまりない。民間がサービス付き高齢者住宅（サ住高）をつくる際に、市が支援できないか。

委員 サ住高はとても良いと思うが、お金がかかる。また、高齢者ひとりでは契約しにくいということもある。

座長 今の高齢者はお金持ちの人も案外多い。少しずつでも誘導施策があれば、次に魅力的な仕事を増やすという観点で議論したい。

事務局 今年3～4月で700名が市外に転出しているが、22歳が92名、24歳が40名、20歳が34名となっている。就職するときに転出しているという実態が表れていると思う。これまでも傾向としてはあったが、平成27、28年と増加している。

委員 若い人が都会へ出て行くのは自然なことなので、出産などの機会に戻ってきてもらえるように子育て支援策を充実させるのが重要と思う。子どもを産むのは一大決心なので、それに対するわかりやすい大胆な支援があれば。

委員 医学部のキャリア研修では、20代は将来のことが決めきれないこともあり仮の働き方、住み方になると話している。自分の仕事や家庭について本格的に考えるときに、長浜市に住むことが選択肢の一つとしてあるのが大事ではないか。

座長 専門職のように手に職がある場合はどこでも働けるので、住む場所を選べる。結局は子育て支援の充実が重要と思われる。

委員 子育て世代のお母さんを対象に「あなたらしい働き方を考える」という講座を実施する予定である。自分自身がどうしたいか、と考える機会づくりになる。

委員 色々な考え方があると思うが、子育てをする母親にとっても社会とのつながりがあることは大切だと思う。育児休暇で数ヶ月離れるだけで、社会との距離を感じるということがある。出産直後の母親の自殺率が高いというニュースを見たが、他人事ではないというように感じた。

事務局 産休や育休中にママ友のネットワークづくりというサポートはある。

座長 子育てそのものに関してのサポートだけでなく、お母さんが社会に復帰して働くということへのサポートが必要ではないか。

委員 育休中の女医とは定期面談をして、シフトの話をするなど復職に対する支援をしている。定期面談により、復職へのハードルが下がっていると感じている。

座長 保育士、看護師、介護士も出産後に復職しない人がいるが、仕事としてのニーズはある。これからの子育て支援として、子どもを育てることへの支援だけでなく、若いお母さんが働ける環境をサポートする、色々な職種があって、いつでも働けるという環境づくりを実現することが大切だと思う。

委員 育休中で帰る場所がある人は良いが、県外から嫁いで来て10年くらい子育てをしている人は、働きたくても相談できる場所がないという人もたくさんいる。そういう人は、結局は長浜を出ていくことになってしまう。

座長 ハローワークの求人には、昔の経験を活かせるような仕事がなかなかないということもあると思う。

委員 ハローワークや求人票以外でも、少し仕事を手伝ってほしいというような話はあると思う。働きたい人と手伝って欲しい人を結びつけるような仕事のマッチングをすることも産業交流分野において大事ではないか。いきなり雇用契約となるとお互いに難しいが、少し手伝いをするというところから、正規雇用になるということもある。

座長 魅力ある仕事をどうつくるかということやお母さんの就労については、二重行政になる部分があるかもしれないが、きめ細かい仕事の斡旋に市が積極的に関与していかないと、人口減少という大きなトレンドに対応できない。

委員 働きたいと考えているお母さんと人手不足の企業とを橋渡しする必要があると考えて、マッチングできないか話を進めているところである。どうやって広げていくか、行政とどう関わっていくかが大事である。

座長 行政には明確な窓口がないが、共同して大きくしていくことが大切だと思う。
事務局 マッチングについては市としても、様々なところと連携して進めていくような仕組みをつくる、参加していくということをしていきたい。

座長 マザーズジョブだけでなく、ヤングジョブも重要である。ヤングジョブについては、ちょっとした理由で働けなくなった方もたくさんいる。きめ細かく相談に乗って、仕事に結びつけるという行政サポートも必要ではないか。

事務局 就職するための訓練については、民と民のつながりの中でやっていただくことに期待している部分もあるが、行政もサポートしていければと思う。

委員 しょうがい者まではいかない人の就労の受け皿づくりや継続した支援があれば、働き手を増やせると思う。中学校や高校の間でもサポートがあれば良い。

座長 ヤングジョブカフェなど、民間の方が相談に乗って、関係の専門機関につなげていくという仕組みが必要かと思う。

委員 色んな仕事に触れ、様々な選択肢があることを知る機会が若いうちにたくさんあれば良いと思う。

事務局 「未来に輝く人づくりバンク事業」という取組を始めたところである。市内の事業所の方を講師として高校に派遣して、「長浜にこんな企業がある」、「その企業には世界に通用する技術、将来性のある技術がある」ということを知る機会になればと考えている。

座長 農業者や職人の方も含めるべきでは。そういう人たちは仕事と暮らしをセットで語ってもらえる。

事務局 長浜生活文化研究所という団体があり、移住希望者向けの取組が中心であるが、長浜市民にとっても市の魅力に気づく機会となるもので、こうした取組を中学生や高校生向けにも発信していきたい。
中学校までは地元を学習する機会がつくられているが、将来の進路を考える高校3年間ではそれがなくなってしまう。『ふるさと回帰』の取組ということで「未来に輝く人づくりバンク事業」や「高校生チャレンジ&クリエイション事業」を通じて高校生が地元に入り込んで企画立案・実行していくという取組を始めたところである。卒業後に長浜を離れる直前にそういった経験があることで、大学を出たあとに、また働いて暫くしてからでも自分のキャリアを長浜で活かせるということに気づいてもらえたらと考えている。

座長 色々なご意見があったので、できる限り計画に反映いただきたい。

4 閉会

事務局 総合計画の改定について、時間があまり取れなかったので、ご意見があれば後日ご連絡頂ければと思う。本日頂いたご意見は、総合計画や総合戦略の取組みの中で活かしていきたいと考えている。
懇話会は本日の一つの区切りとし、次回は基本計画を策定した来年3月頃にお集まり頂きたく、宜しく願いたい。

以上